

後醍醐天皇と足利尊氏との対立に端を発する南北朝の動乱は、幕府側の内訌も相まって、複雑な対立関係を生み出し、半世紀以上にわたって各地で戦闘が繰り広げられました。京都から遠く離れた南九州の武士たちのもとにも、各陣営から軍事協力を求める文書が届き、ある時は南朝方に、ある時は北朝方に与ししながら、時には一族間で敵味方に分かれて戦うなど、難しい判断を迫られました。

本企画展では、現代に残された貴重な古文書を手がかりに、南九州の武士たちが、生き残りを賭けて、いかにこの動乱の時代を戦い抜いたのかを紹介します。

令和3年
5/26(水) - 8/22(日)
会場：黎明館3階 企画展示室

南北朝の動乱と南九州の武士たち



「太平記絵巻」 部分・パネル 埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵

ご紹介します
展覧会の注目資料を



特集 黎明館企画展



後醍醐天皇宸影
〔模写・部分パネル〕

東京大学史料編纂所蔵

大覚寺統から即位した後醍醐天皇は、大覚寺統と持明院統が交代で皇位につく両統迭立を支持する幕府に不満を抱き、2度にわたる討幕計画失敗を経て、元弘3(1333)年、遂に鎌倉幕府を倒すことに成功した。



太平記

個人蔵

南北朝内乱期を描いた軍記物語。後醍醐天皇の即位から、細川頼之が幼少の將軍・足利義満を補佐する執事(管領)に就任するまでを描く。



繪旨所望輩交名帳

個人蔵

南九州において南北朝争乱が激化したのは、興国3(北朝康永元1342)年に征西將軍官懐良親王が薩摩津に上陸し、谷山氏の居城に拠ってからであった。この交名帳は、懐良親王のもとに参集することを誓った谷山氏をはじめとする薩摩の諸將の名簿である。



渋谷典重軍忠状

元弘3(1333)年8月日付

足利高氏(尊氏)から後醍醐天皇への協力要請を受けた島津貞久は、薩摩国御家人を率いて鎮西探題を攻撃し、滅亡させた。この軍忠状はこの合戦に参加した渋谷典重が、自らの戦功を申告したものである。



今川貞世(了俊)

〔「英雄百首」より・部分パネル〕

国立国会図書館蔵

島津氏久が誘引した少武冬資を九州探題・今川了俊が謀殺したことから、氏久は了俊に敵対し、さらに、島津伊久も官方に転じた。



足利直冬軍勢催促状

貞和6(1350)年11月30日付

足利尊氏の庶子で直義の養子となった直冬が、渋谷重興に参陣を求めた軍勢催促状。敵方に知られることなく届けるためか、縦15.7cm×横20.3cmの小さな紙に書かれている。



南朝方豪族谷山氏の旗

個人蔵

谷山氏が北朝方との戦いで用いたものと伝わる旗。絹地に谷山氏の紋章が染め込まれている。

期間限定特別展示(5月26日~6月24日)



[重要文化財] 紺糸威鎧 兜・大袖付
鹿児島神宮蔵・黎明館保管

展示解説

6月6日(日)、7月4日(日)、8月1日(日)
(いずれも13:30~14:10)

■要入館料

関連イベント

学芸講座(展示解説講座)「南北朝の動乱と南九州の武士たち」

日時:7月18日(日)13:30~15:00

講師:黎明館学芸専門員 吉村 晃一

会場:黎明館3階 講座室

参加方法:事前申込制(申込方法の詳細は、ホームページまたはチラシをご覧ください。)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催期間や関連イベントを変更または中止する場合があります。
※期間中、一部展示替を予定しています。